

令和7年度 松江市立朝酌小学校 学校経営方針

1 社会的背景

Society5.0

5番目の歴史的転換期

20年後には半分の職が姿を

消すと予想される激変の時代

自尊感情、自己肯定感

が低い日本の若者

多様な価値観の中で合意形成

や自己決定を迫られる時代

「七五三」と言われる離職率

自分の活かし方がわからない?

2 教育界の方向性

文科省：社会を生き抜く力 ⇒ 島根県：主体的な課題発見 他者との協働

定まった答えのない課題に粘り強く向かう力

島根県公立高校入試の変更 ⇒ 自分の進みたい道を自分で決める力

自分のことばで、自分を語れる力

主体性、自主・自立、創意工夫が求められる

3 本校の学校教育目標

豊かな心と たくましい実践力をもつ子どもの育成

4 本年度の重点

あさくみ の合言葉

あいさつする子・・・いつでも、どこでも、だれにでもあいさつする

さえあう子・・・誰かのために行動する。誰とでも遊べる。

ふうする子・・・めあてをもってがんばる。

がきあう子・・・めあてをもって聞き、自分の事として考える。

令和6年度の児童の姿から（○は令和7年度の目指す姿）

あいさつする子

- ・元気のよいあいさつを返すことができる。
- ・立ち止まり、目を見合いであいさつできる子がいる。
- 自分からあいさつできる子。

さえあう子

- ・困っている子を助けたり、待ったりすることができる。
- ・他学年の子と遊ぶことができる。
- 自分のことが最後までできる子。

ふうする子

- ・算数などでやり方を粘り強く考える。
- ・学級で行事等に協力して取り組む。
- 経験を生かして、自主的に課題に取り組む子。

がきあう子

- ・話をしっかりと聞ける子が多い。
- ・グループやペアでの話合いで積極的に意見を言える子がいる。
- 自分の意見を自分のことばで言える子。

R7自分から動き出せる子

1学期「チャレンジしよう」

2学期「1学期の自分をこえよう」

3学期「今の学年を卒業しよう」

5 教育目標達成に向けた手立て（合言葉を4本の柱として）

あいさつする子「ふるまい向上」

- ・あいさつ運動
- ・生活目標
- ・幼稚園との交流
- ・地域の方との交流
- ・他校との交流

ささえ合う子「人権意識を高める」

- ・人権週間の取組（道徳・学活・社会科を通して）
- ・アンケート QU の活用
- ・教育相談で積極的な児童理解
- ・理解教育

くふうする子「学力向上」

- ・学力調査分析に基づく授業改善
- ・ICT を活用した授業
- ・書き取り会 計算会
- ・校内研究の取組
- ・自学
- ・読書週間

みがきあう子「よりよい体と生活習慣作り」

- ・メディアコントロール
- ・マラソンタイム
- ・なわとびタイム
- ・学校保健委員会

6 学校教育目標達成の基盤として

（1）「チーム朝酌」意識

- ・個々の専門性を広げ、全体のパワーアップを図る。（教科担任制に近付ける）
- ・仲間のピンチは補い合う。（一部の不安定さを全体に波及させない）
- ・一人で抱え込まない、抱え込ませない。

（2）全職員のベクトル合わせ

- ・「みんなが知っている」をだいじにする。（情報共有、報告・連絡・相談）
- ・子どもの良さや変容は声に出す。（同じ目線で支援し評価）
- ・「朝酌スタンダード」を増やしていく。
- ・今年度着任した方は新鮮な感覚を大切にして声にだす。それに耳を傾ける。

（3）ピンチをチャンスに！ マイナスをプラスに！ チャンスはいつもそこにある

- ・トラブル、問題行動は「指導のチャンス」と考える。

（4）落ち着きの心は整った環境から

- ・目に見えるものを美しく整える。（上ぐつ、掃除用具、トイレスリッパ、机上、黒板、ごみなど）
⇒★見る人にも美しく ★次の人への思いやり 思いをつなぐということ
- ・言語環境を整える。（言葉遣いのチェックと指導 子どもの呼び名は職員間でも「さん」）

（5）子ども以上のけじめ

- ・挨拶は大きな声を出す。（おはようございます。いらっしゃいませ。おつかれさまです。）
- ・時間と期限を必ず守る。（授業時間、提出物）
- ・共通理解したことは必ず実行する。⇒職員間の信頼関係、子どものけじめ

（6）「これでよい」より「これがよい」に

- ・気持ちを伝えるのは「連絡帳でよい」から「会って話すのがよい」に
- ・提出や報告の期限は「間に合うのでよい」から「早いほうがよい」に